



# 個人投資家向け I R セミナー資料

東証スタンダード市場 証券コード:7677

## 株式会社ヤシマキザイ

2023年12月11日

(主催：公益社団法人日本証券アナリスト協会 会場：北浜フォーラム)

## 株式会社ヤシマキザイとは

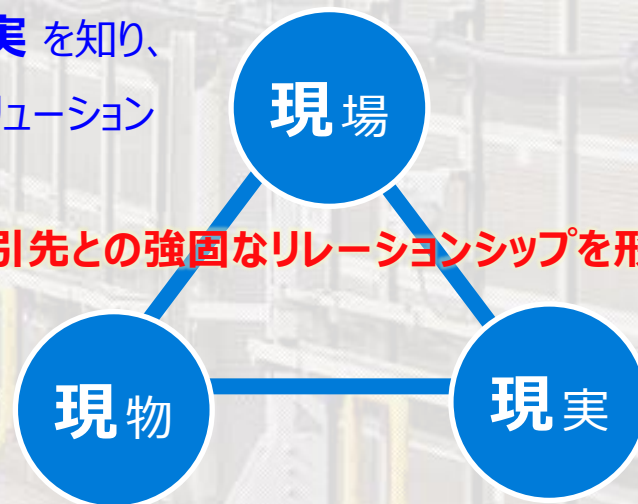
鉄道業界を主な市場として、商材やサービスを提供する商社です

3現主義を基軸に、鉄道業界で重要なポジションを確立しています

3現主義とは 10-500

顧客の **現場** に足を運び、**現物** に触れ、**現実** を知り、  
顧客のニーズをくみあげ、仕入先に展開し、ソリューション  
を組み立てることを意図しています。

取引先との強固なリレーションシップを形成



1. 会社概要	P. 4
2. 特長と強み	P.16
3. 成長戦略	P.22
(2022年3月期～2024年3月期 中期経営計画)	
4. 2024年3月期 通期業績予想	P.27
5. 配当・株主還元	P.34
6. トピックス	P.37
7. ご参考資料	P.46


【ご注意事項】

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため様々な要因の変化により、実際の業績は記述している将来見通しとは、大きく異なる可能性があります。





A blue-tinted photograph of a high-speed train on tracks. The train is sleek and aerodynamic, moving from left to right. Overhead power lines and support structures are visible above the tracks. The background shows some trees and a clear sky.

# 1. 会社概要

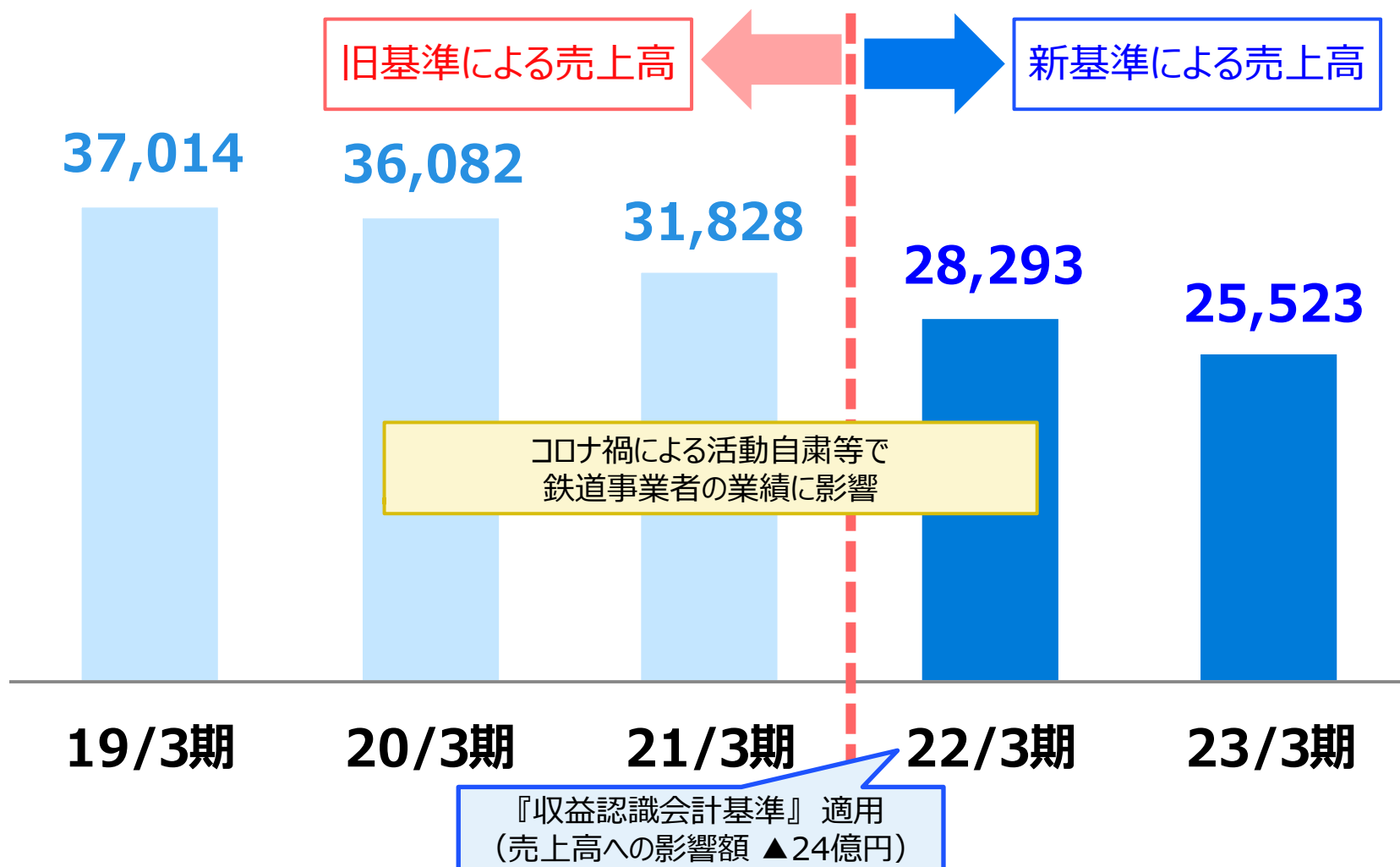
■ 1948年に設立、旧国鉄との取引から始まり75年、鉄道の発展に寄与し成長

## ヤシマキザイ主要商材



- コロナの影響が緩和され、主要顧客の鉄道事業者の業績は回復基調に入り、鉄道事業者の設備投資等も回復途上にあるが、手配部品の供給不安等もあって当社は厳しい状況が続く

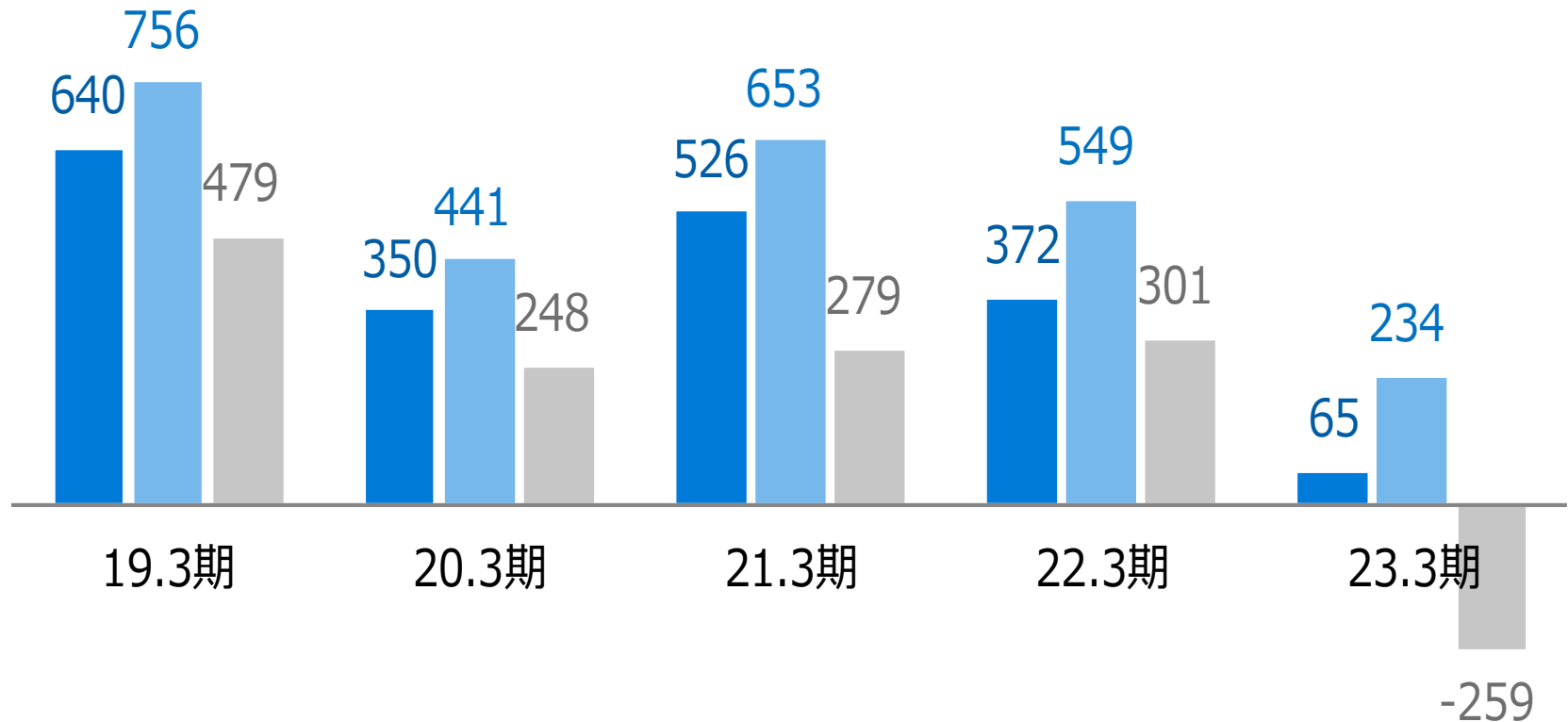
連結売上高の推移 (百万円)



- 当期純利益は、2020年3月期をボトムとして徐々に回復傾向にあったが、2023年3月期は商材の供給不足に加え、特別損失計上により最終赤字に

利益の推移（百万円）

■ 営業利益    ■ 経常利益    ■ 当期純利益

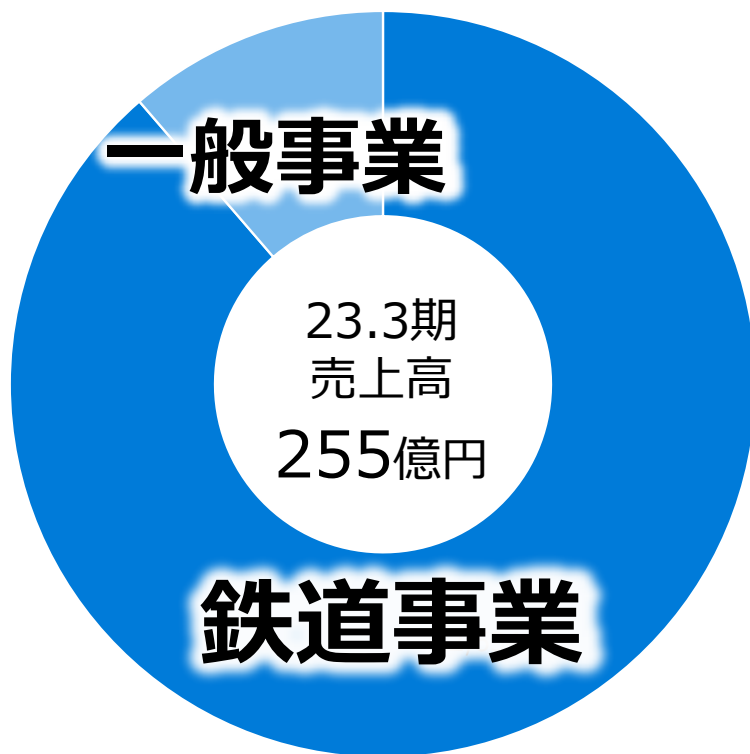




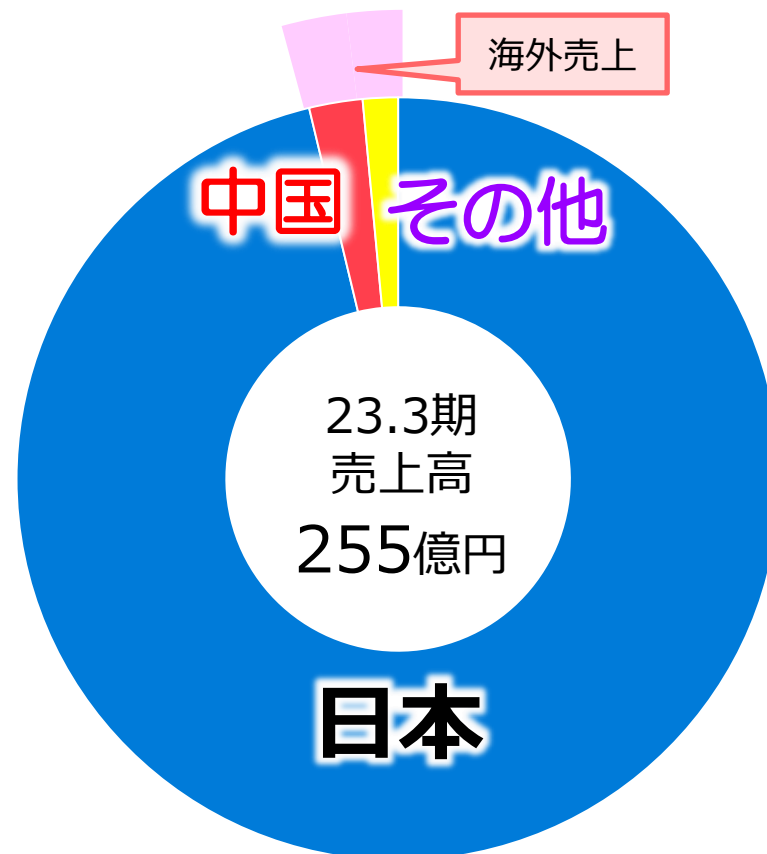
**鉄道事業** 鉄道事業者や車両メーカー等に車体用品、電気用品等を販売

**一般事業** 鉄道業界以外の産業機器メーカー等に電子部品等を販売

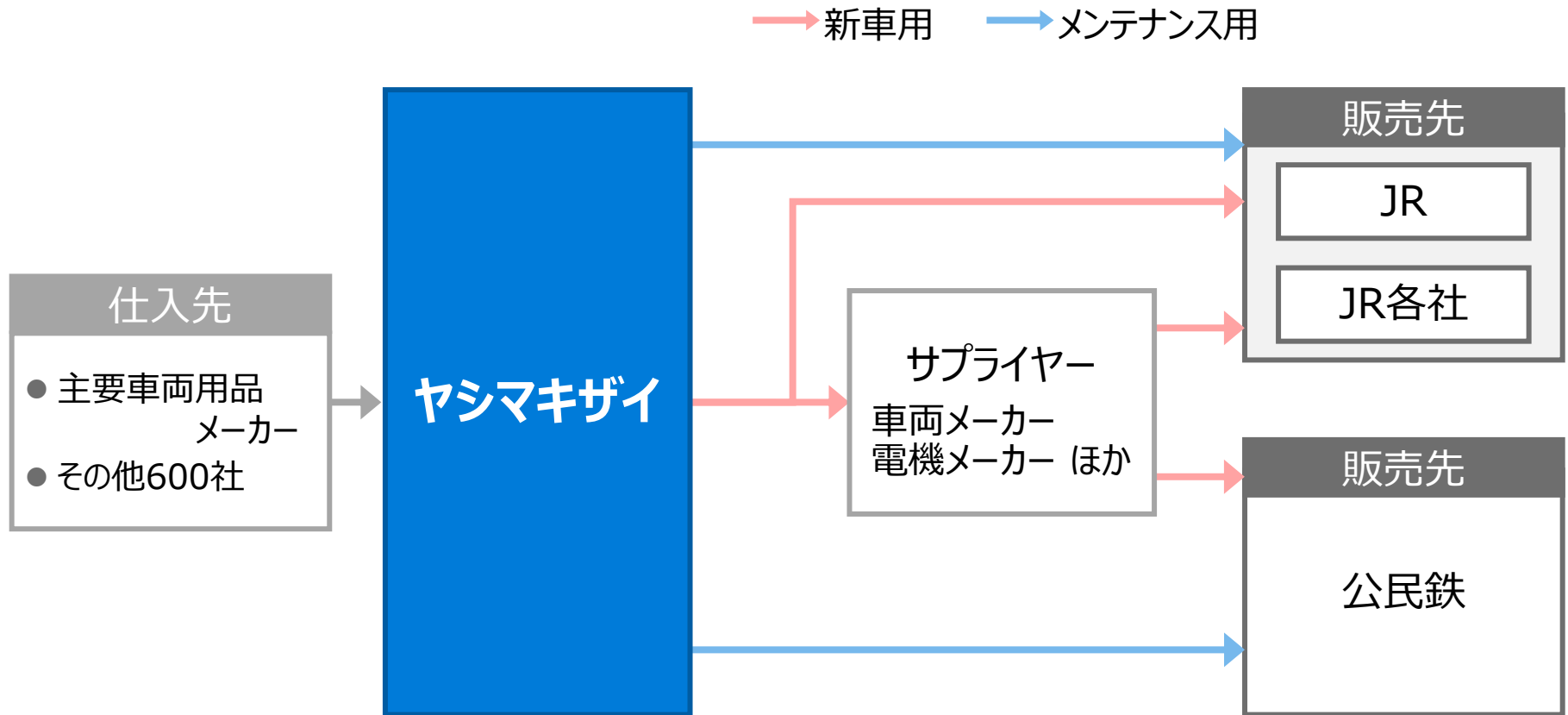
セグメント別 売上高構成比



地域別 売上高構成比



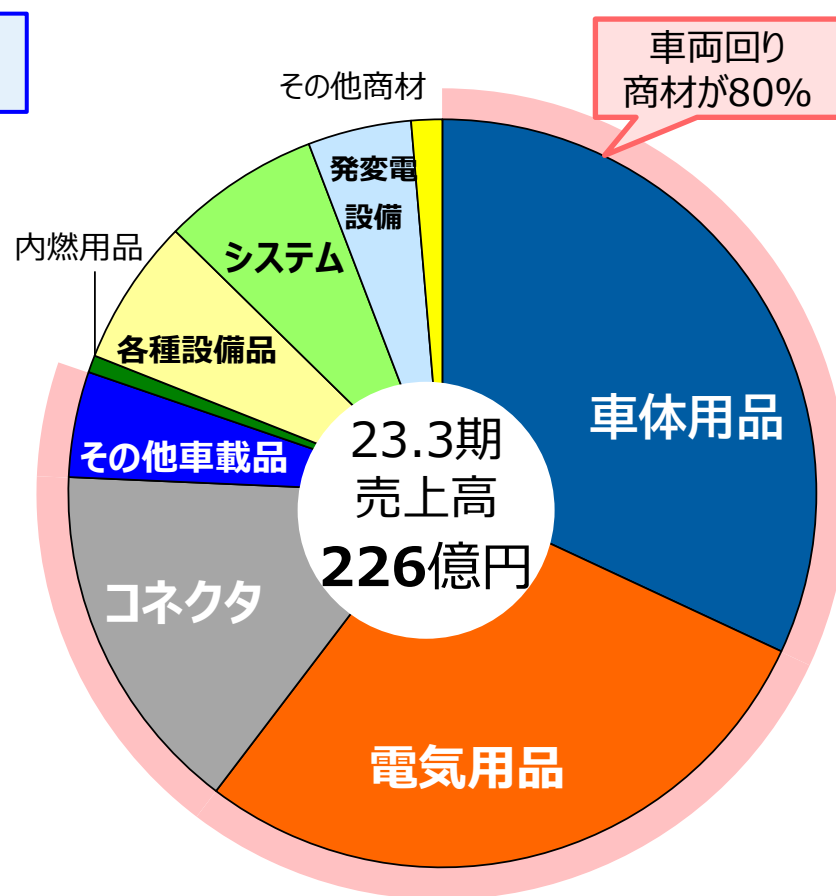
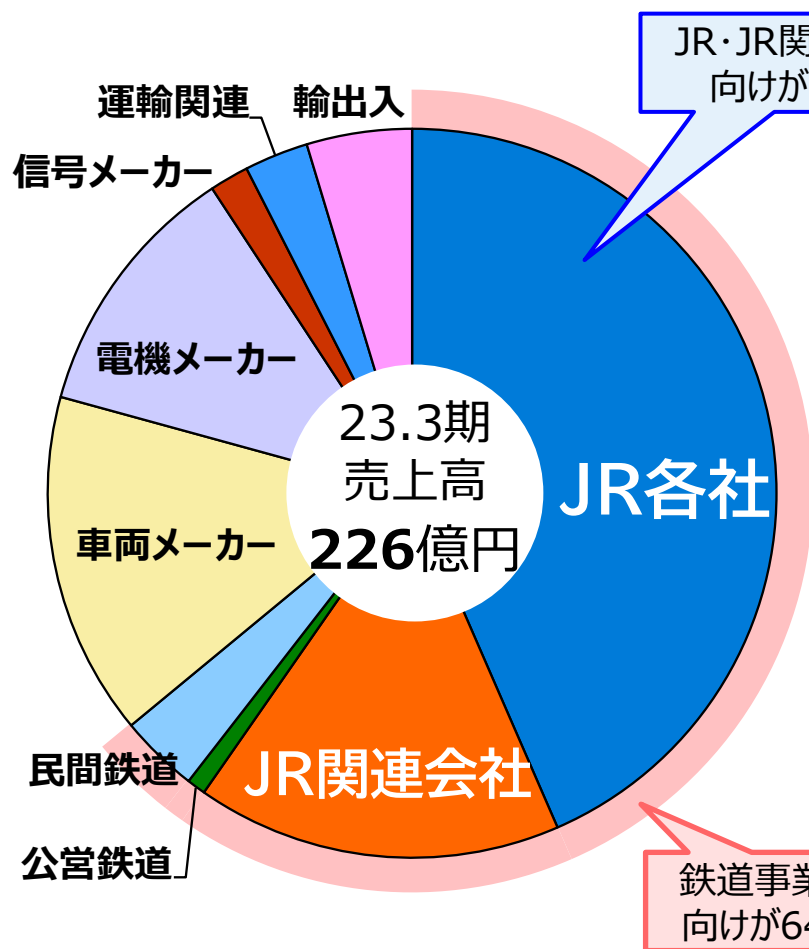
- 仕入先は**日立製作所**、**日本航空電子工業**、**ナブテスコ**、**コイト電工**などの国内有数メーカー
  - ◆ JRはじめ鉄道各社と仕入れ先を結ぶ重要なポジションで商材を提供



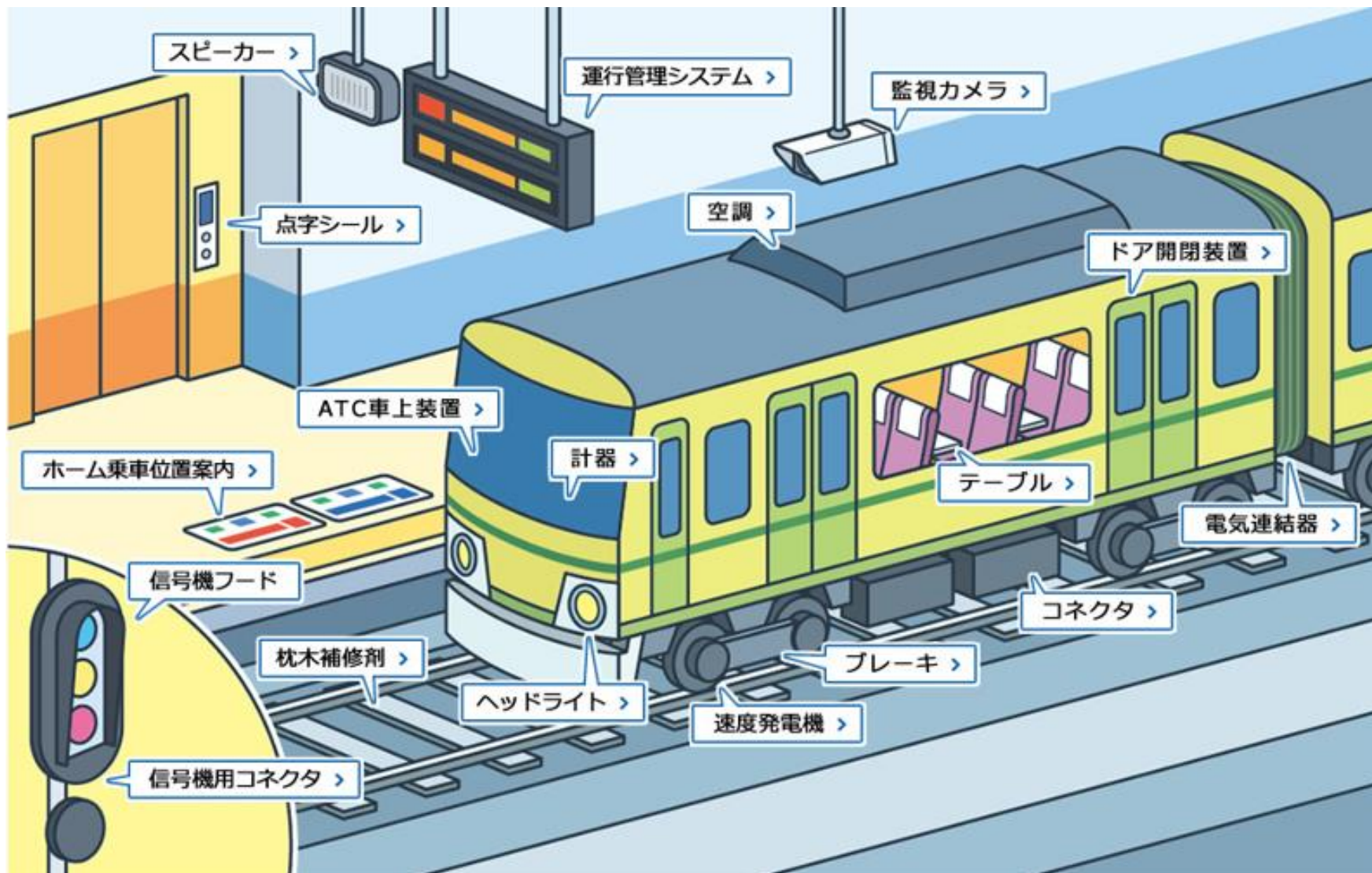
- 鉄道という特殊な条件に適合する**9**業界へ**9**商材を提供

**9**業界別 売上高構成比

**9**商材別 売上高構成比

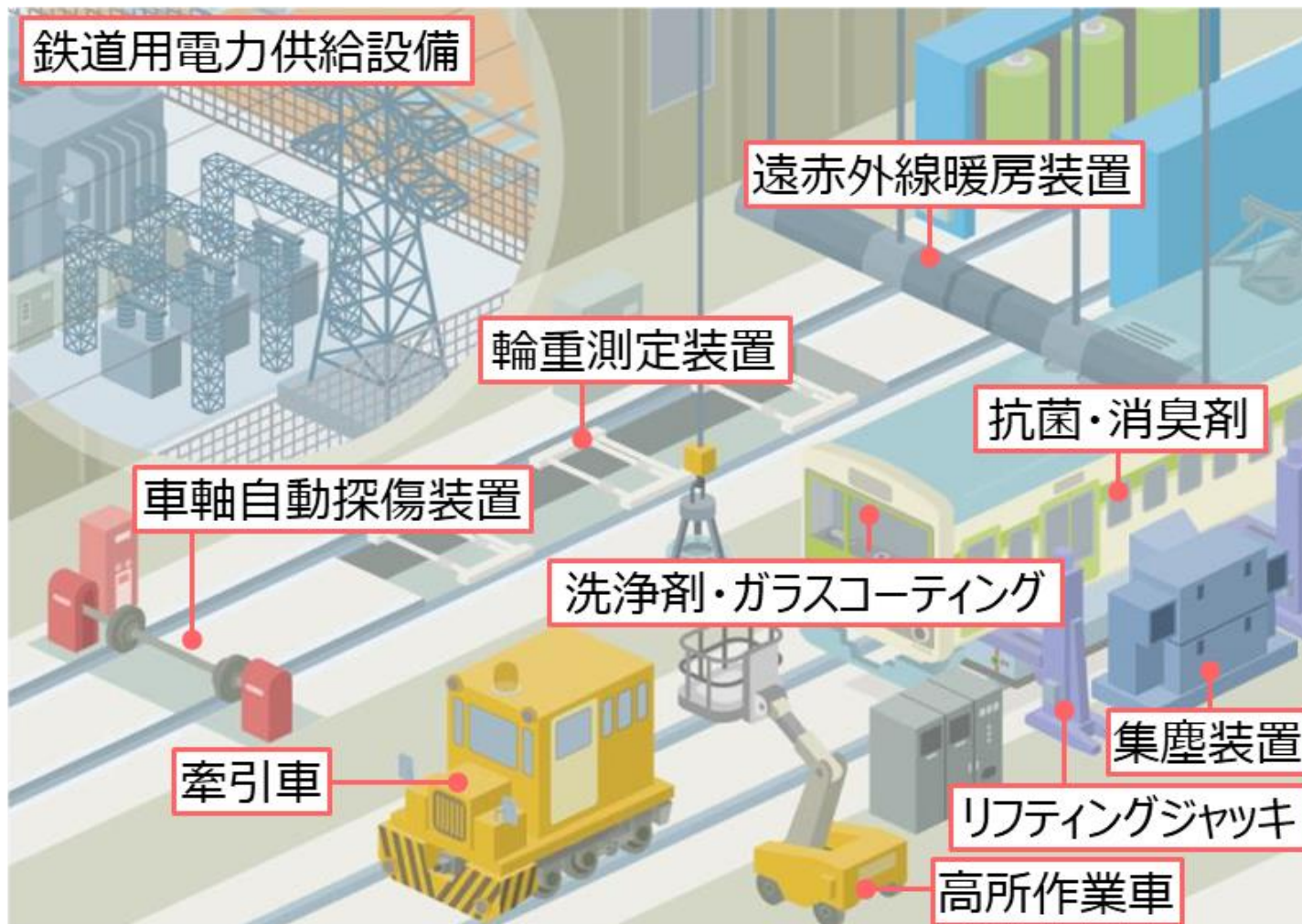


- 車両周りをメイン分野とし、幅広い鉄道関連商材を取り扱う



## ■ 車両周り以外にも、幅広く鉄道業界を支える

検修施設、駅などで使用するものや、電車の運行に必要なシステム、発電所・変電所の製品も扱う

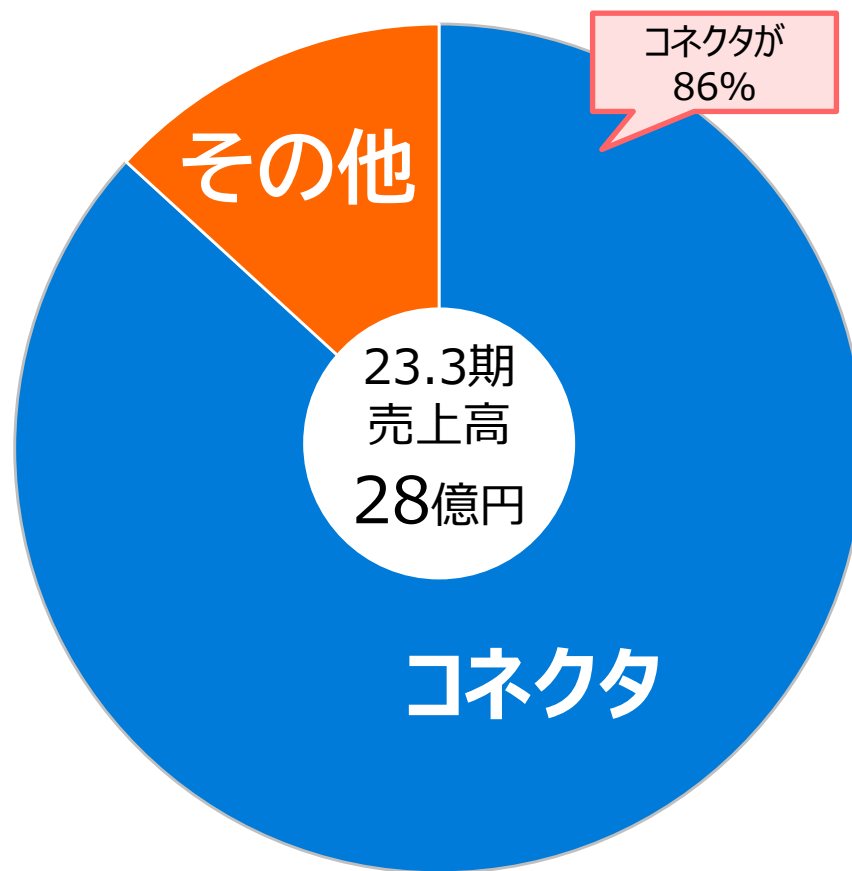
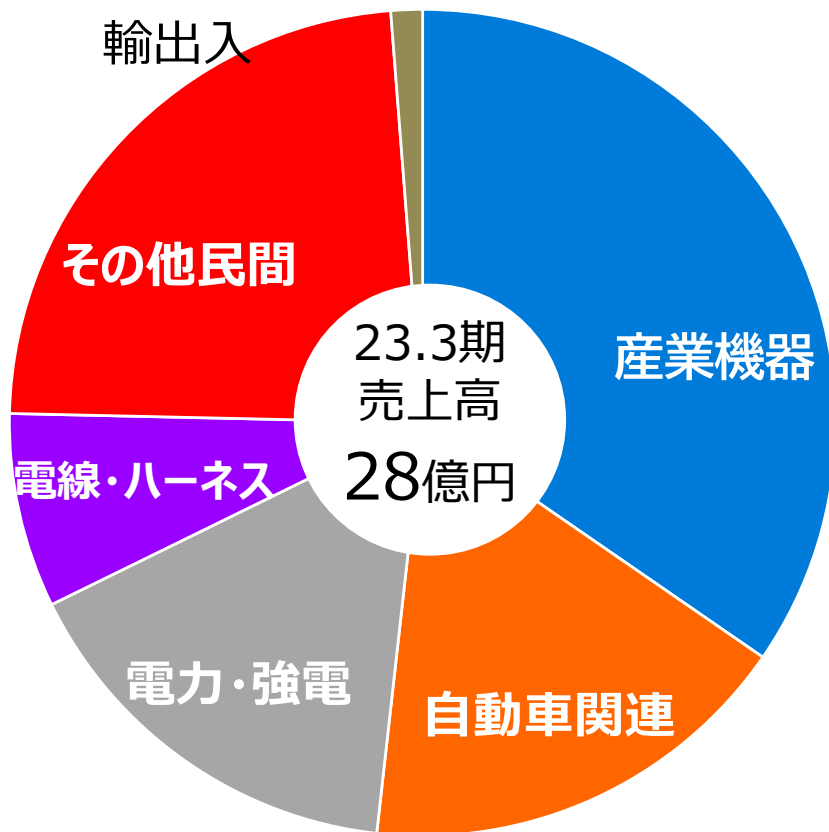




- 鉄道事業における販売先以外の6業界へ、コネクタ・電子部品などを販売

6業界別 売上高構成比

商材別 売上高構成比



- 鉄道事業以外の販売先を対象に、主にコネクタ・電子部品などを販売



- コネクタ以外の商材ラインナップも拡販中  
(写真は道路インフラ業界向けに提案している商材)





A blue-tinted photograph of a high-speed train on tracks. The train is white with a sleek, aerodynamic nose. It is positioned on a set of tracks with gravel ballast. Above the tracks, there is a complex network of overhead power lines and support structures. The background shows some trees and a clear sky. The overall scene is presented in a monochromatic blue color scheme.

## 2. 特長と強み

創業以来**75**年、**3現主義**で築き上げた、**顧客との強固なリレーションシップ**

1

高い専門性と3現主義に根差した商社機能

2

業界で唯一、北海道から九州まで、全国を網羅するサービス網

3

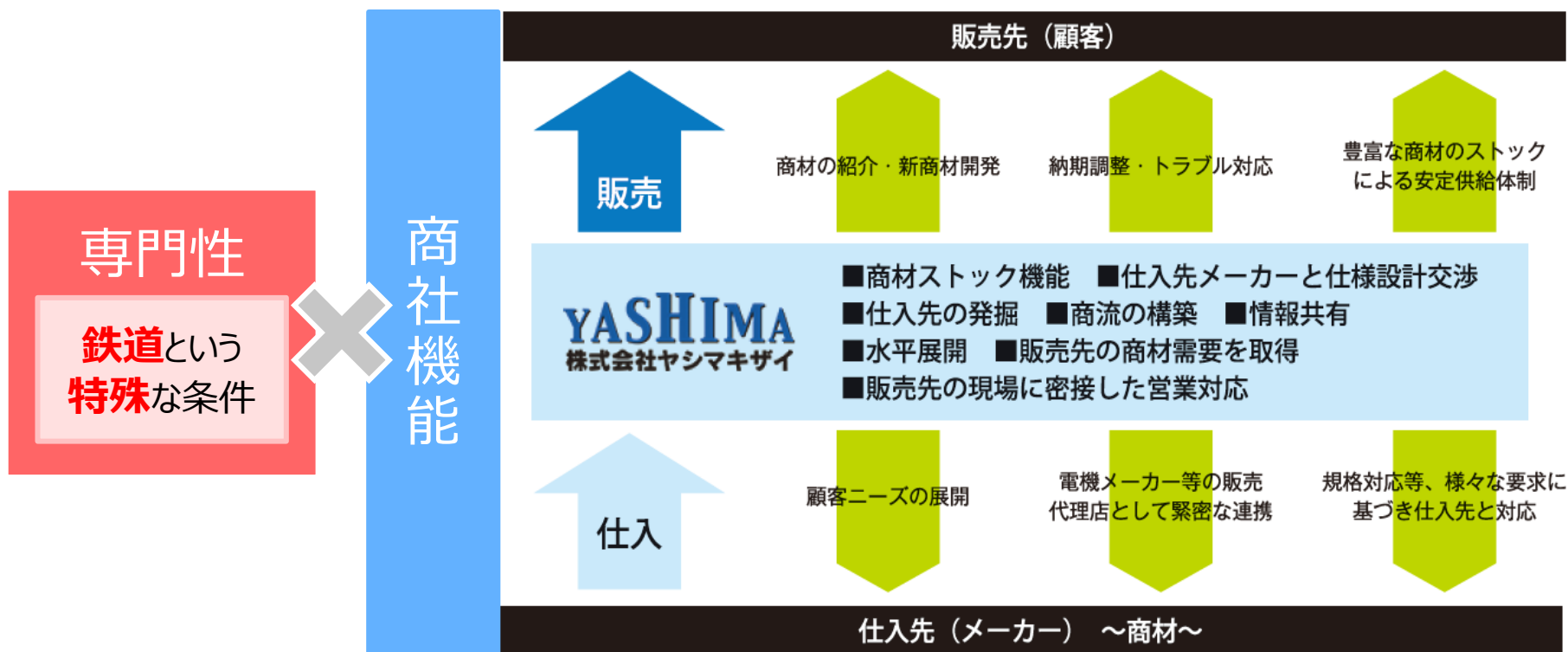
鉄道業界の水先案内人としての海外展開力



# ①高い専門性と3現主義に根差した商社機能

- 永く鉄道業界で培ったノウハウと、約600社の仕入先・中小メーカーとのパイプを活かし、顧客の実情に合わせた様々な商材を提案

⇒ 専門商社として、鉄道という社会インフラを支える



### ■ 業界で唯一全国をカバーする現場力で差別化

大手企業ではカバーしきれない小回りの良さで、現場のニーズに根差した商品を提案

#### 国内12拠点



東京本社



大阪支店



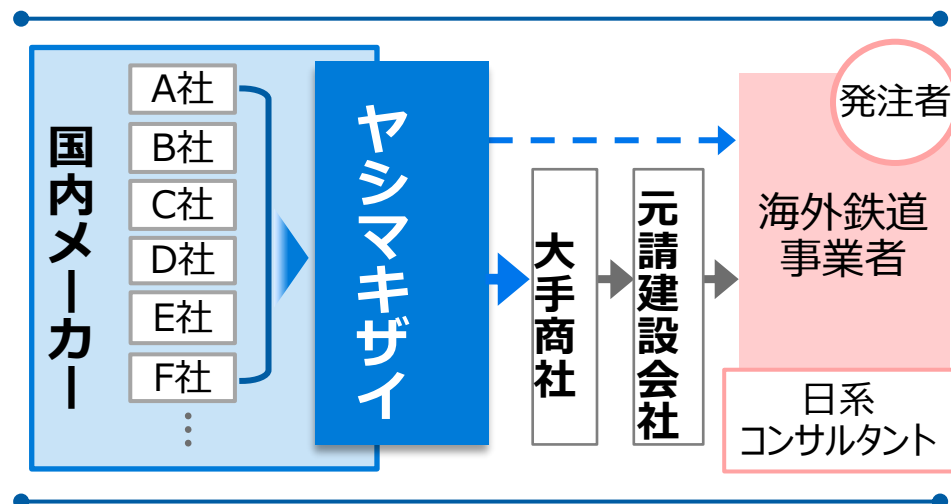
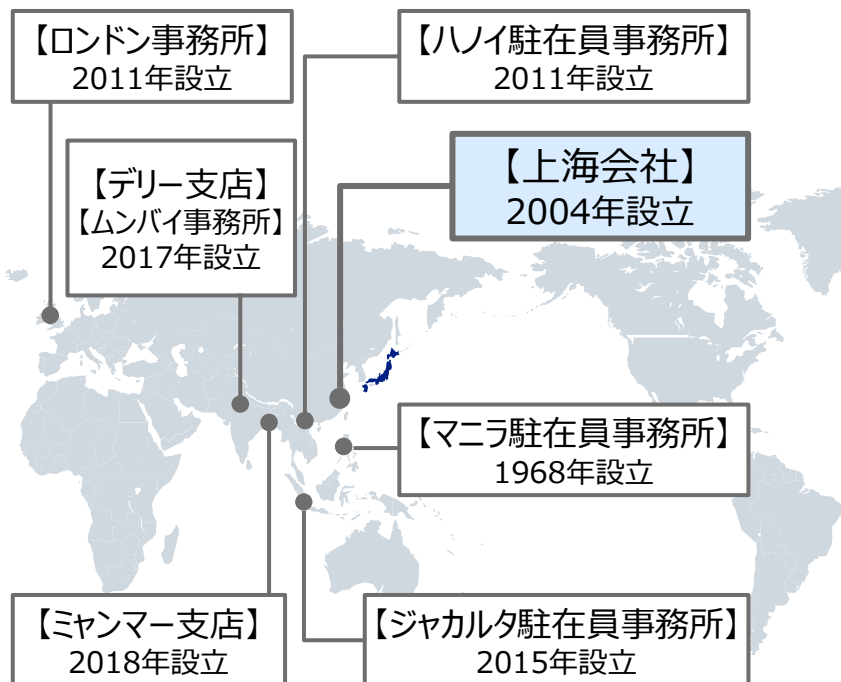
名古屋支店

### ③鉄道業界の水先案内人としての海外展開力

- 国内で培ったノウハウを基に、海外への展開を進める
- ODA案件等で仕様交渉と商流構築力を実践


#### 海外8拠点

■ 連結子会社    □ 支店・駐在員事務所



国内メーカーと海外鉄道事業者等を結び付け、仕様や納期の調整に加え、大手商社が持たない中小メーカーとのパイプ役として、存在感を発揮





### 3. 成長戦略

(2022年3月期～2024年3月期 中期経営計画)



## 中期経営計画 基本目標

1

ポストコロナに向け、安定成長軌道への回帰

2

事業環境の変化を見据え、新たな企業価値・存在価値の創出

3

2024年3月期 R O E 5%

中期経営計画 基本方針・戦略

1 鉄道セグメント

既存事業基盤の強化による  
持続的成長の実現

車両回り中心の既存事業基盤の強化

「公営鉄道」「民間鉄道」への  
注力と受注拡大

事業領域拡大  
高付加価値サービスの提供

検修設備・保線等  
車両周辺領域への深耕

顧客のニーズ・課題の把握  
新たなビジネスモデル創出

## 中期経営計画 基本方針・戦略

### 2 一般セグメント

収益性向上、投下リソースに見合う採算を確保できる体制構築

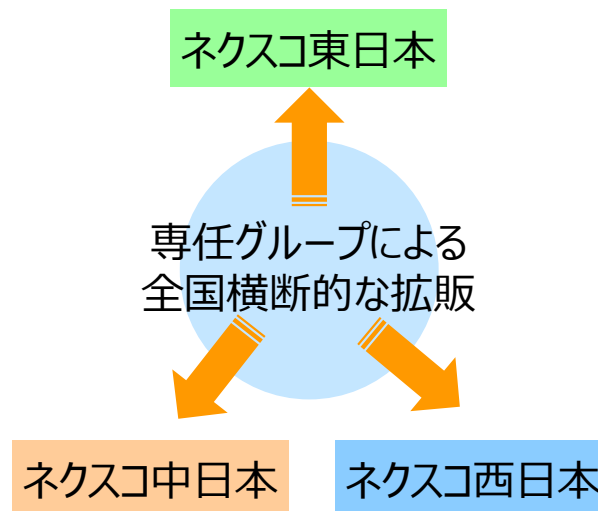
業務効率化・生産性の向上

#### 窓口の集約化

小口客先を二次店経由に集約し、二次店とのやり取りはRPAで自動化することでコスト削減と事務工数削減

#### 組織変更による人的リソースの適正配置

鉄道事業で培ったノウハウを活用するため、親和性のある『交通インフラ分野』として『道路インフラ』業界のネクスコをターゲットとして専任グループを定め、営業活動を展開



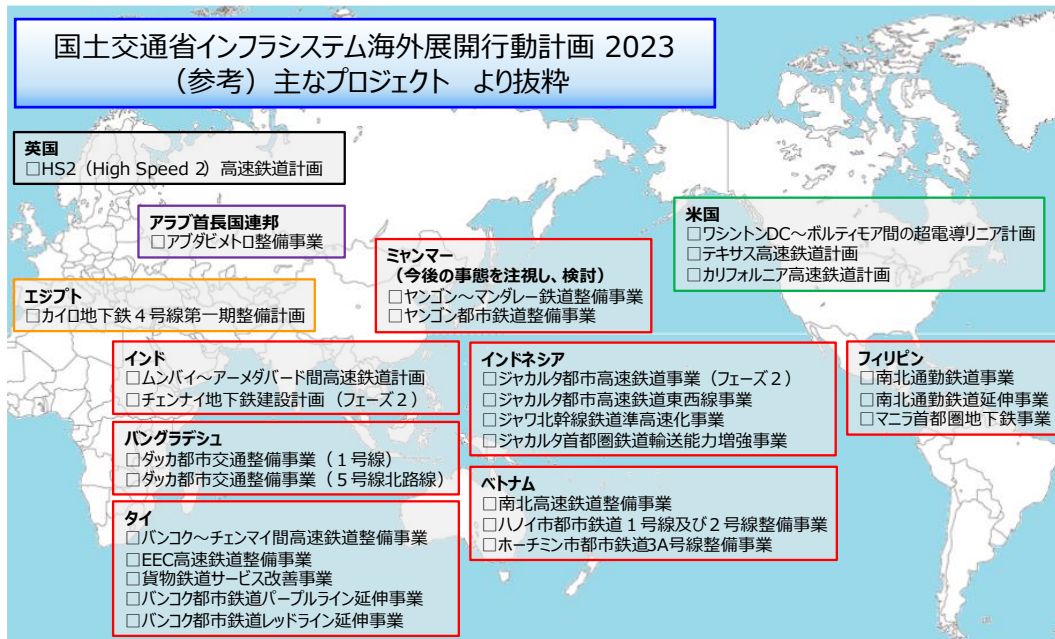
## 中期経営計画 基本方針・戦略

### 3 海外事業

グローバル市場の開拓・  
ODA鉄道インフラ整備案件  
への参画促進

現地対応力の強化

ODA案件への注力





A blue-tinted photograph of a high-speed train on tracks with overhead power lines. The train is white and aerodynamic, moving along the tracks. The background shows a clear sky and some trees.

## 4. 2024年3月期 通期業績予想

## ■ 売上高は前期から増加

【鉄道事業】旅客収入の回復は途上ながら、主要顧客の鉄道事業者の業績が増収増益となったことで設備投資や修繕の需要が増加。また、部品不足や予算抑制のため前期計上予定案件が今期にスライドしたこともあって増収

【一般事業】一部の取引先業界で半導体不足による減産や生産調整が継続しており、主力の電子部品が伸びず減収

## ■ 利益面は増収により赤字額縮減も、コロナ前の水準には及ばず

- ・ 前期以降、不適切な会計処理の発生により、その調査や再発防止対応等で 販売費及び一般管理費 は増大
- ・ 中国子会社の 石油関連取引 に係る正味支出分を 貸倒引当金繰入額 として特別損失を計上したため、親会社株主に帰属する当期純利益は引き続きマイナス  
(特別損失は、前期436百万円、うち前年22/9累計94百万円、当期23/9累計は146百万円)

金額単位 (百万円)	コロナ前 19/9累計実績	前年同期 22/9累計実績	当期 23/9累計実績	前年 同期増減	前年 同期比
売上高	15,440	11,489	<b>12,938</b>	+1,448	+12.6%
売上総利益	1,845	1,609	<b>1,735</b>	+125	+7.8%
販売費及び一般管理費	1,779	1,758	<b>1,813</b>	+54	+3.1%
営業利益	66	-148	<b>-77</b>	+70	-
経常利益	120	-62	<b>-5</b>	+56	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	84	-165	<b>-146</b>	+18	-

## 上場 J R 3 社の状況

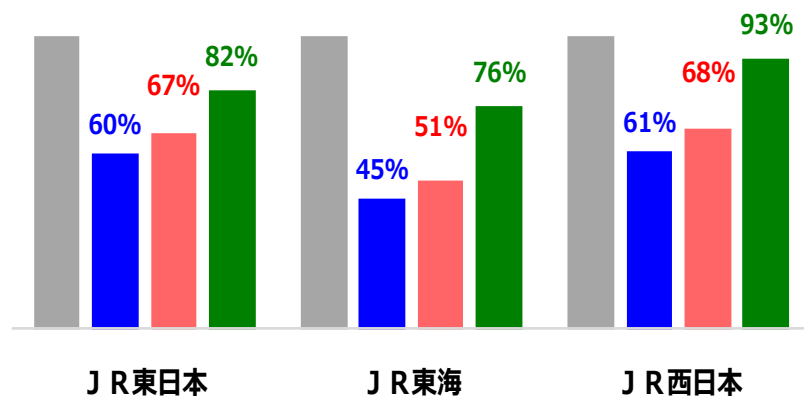
- 当社の売上の**60%超が鉄道事業者向け**で、**J R 東日本・東海・西日本**がメイン
- 新型コロナの5類移行による行動制限等の緩和 と 鉄道利用者数の回復  
 ⇨今年度は、コロナ前（2020/3）の8割程度の水準まで 営業収益（売上高） が回復

ただし、リモートワークの普及等、生活様式の変化もあり、鉄道利用者数のコロナ以前の水準までの回復には時間を要することが想定される

### ①上場 J R 3 社(連結) 営業収益

20/3期 実績を100とする

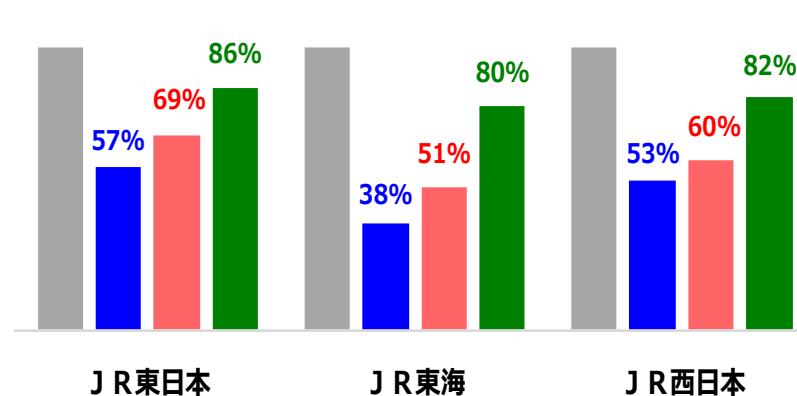
■ 20/3期 実績 ■ 21/3期 実績  
 ■ 22/3期 実績 ■ 23/3期 実績



### ②上場 J R 3 社(単体) 営業収益

20/3期 実績を100とする

■ 20/3期 実績 ■ 21/3期 実績  
 ■ 22/3期 実績 ■ 23/3期 実績



- 主要 民間鉄道事業者 も 上場 J R 3 社 と同様の傾向

## 上場 J R 3 社の修繕費・設備投資の状況

### 【 J R 各社の修繕・設備投資意欲の向上】

2024/3期は各社とも営業利益が増加する予想を公表

⇒コロナ禍において黒字化のために抑制されていた**各種修繕や設備投資も回復傾向**にあり、一部ではこれまでの反動もあって、コロナ前を超える水準となる予想も

### 【 J R 各社の予算執行状況】

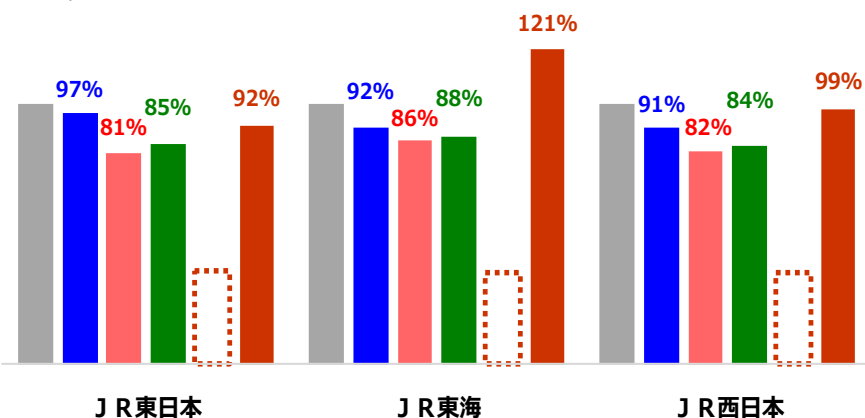
予算の執行については、 J R 各社ともに**下期偏重傾向**（上期は通期予想金額の30～40%程度）

⇒**下期の予算執行に期待**

#### ①上場 J R 3 社(単体) 修繕費

20/3期 実績を100とする

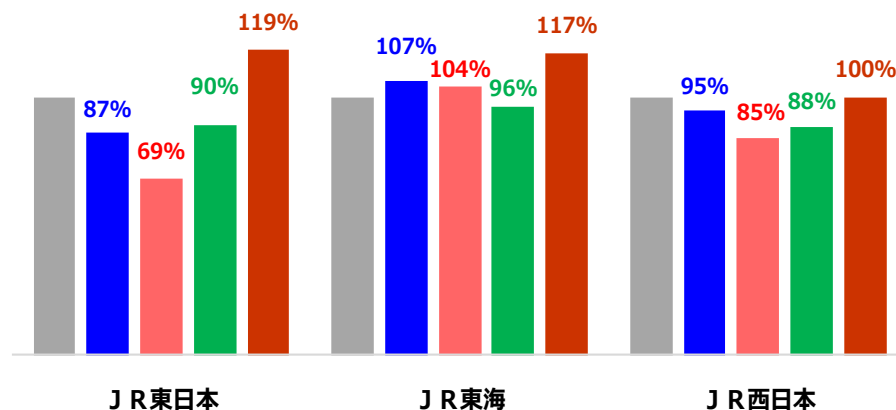
■ 20/3期 実績  
■ 21/3期 実績  
■ 22/3期 実績  
■ 23/3期 実績  
■ 23/9期 累計実績  
■ 24/3期 予想



#### ②上場 J R 3 社(単体) 設備投資

20/3期 実績を100とする

■ 20/3期 実績  
■ 21/3期 実績  
■ 22/3期 実績  
■ 23/3期 実績  
■ 24/3期 予想



設備投資額の2022/9累計実績金額については、各社非公開

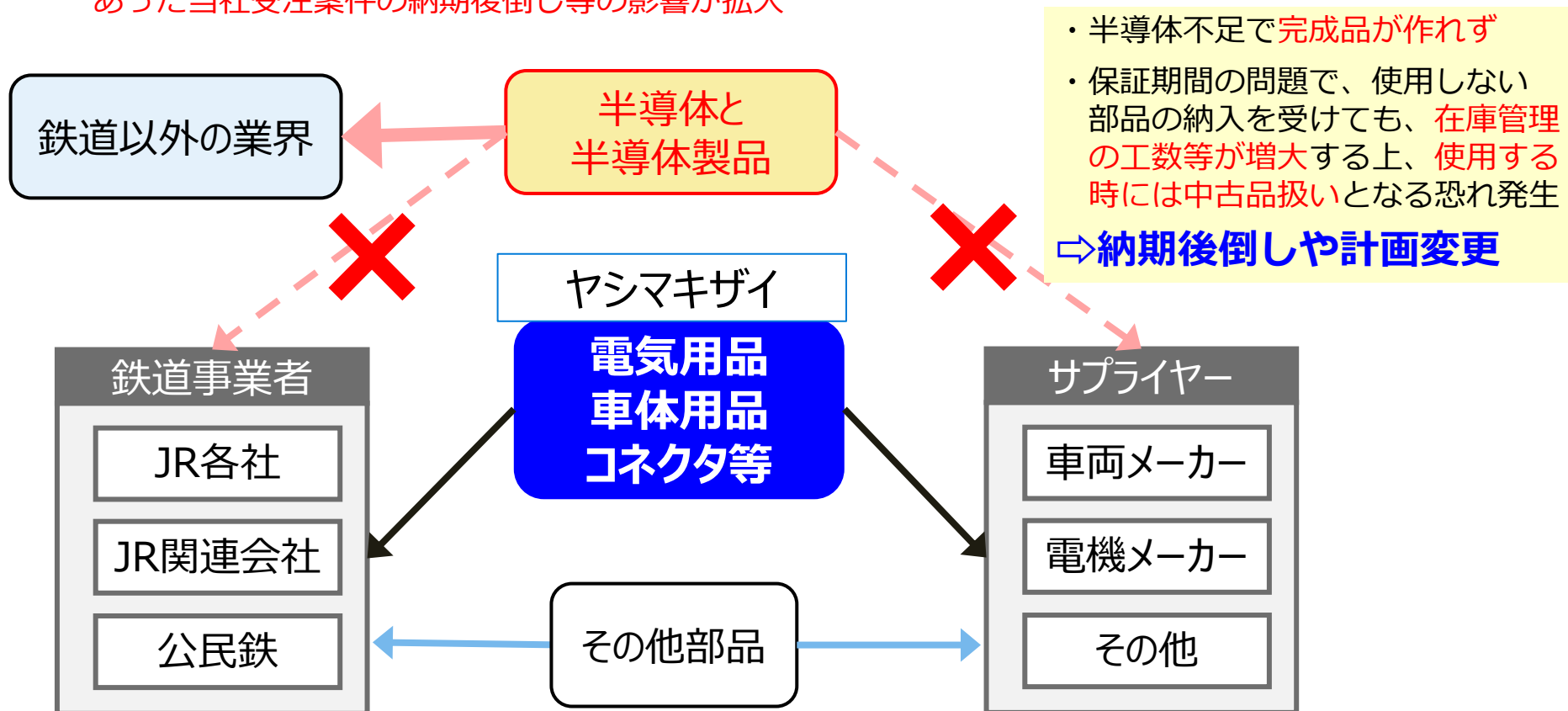


## 半導体不足の影響

### 【鉄道事業者やサプライヤーの工程見直し】

世界的な半導体の不足から、半導体メーカー各社は増産体制を急ぐも、医療機器用や経済全体に影響を及ぼす自動車・IT機器用が優先され、鉄道車両用等はマーケット規模が比較的小さいこともあり、未だ供給が不安定な状況が続く

⇒半導体を使用する鉄道車両用機器の製造工程見直しや計画変更等により、**本来当期で売上計上予定であった当社受注案件の納期後倒し等の影響が拡大**



## 販売費及び一般管理費の増加

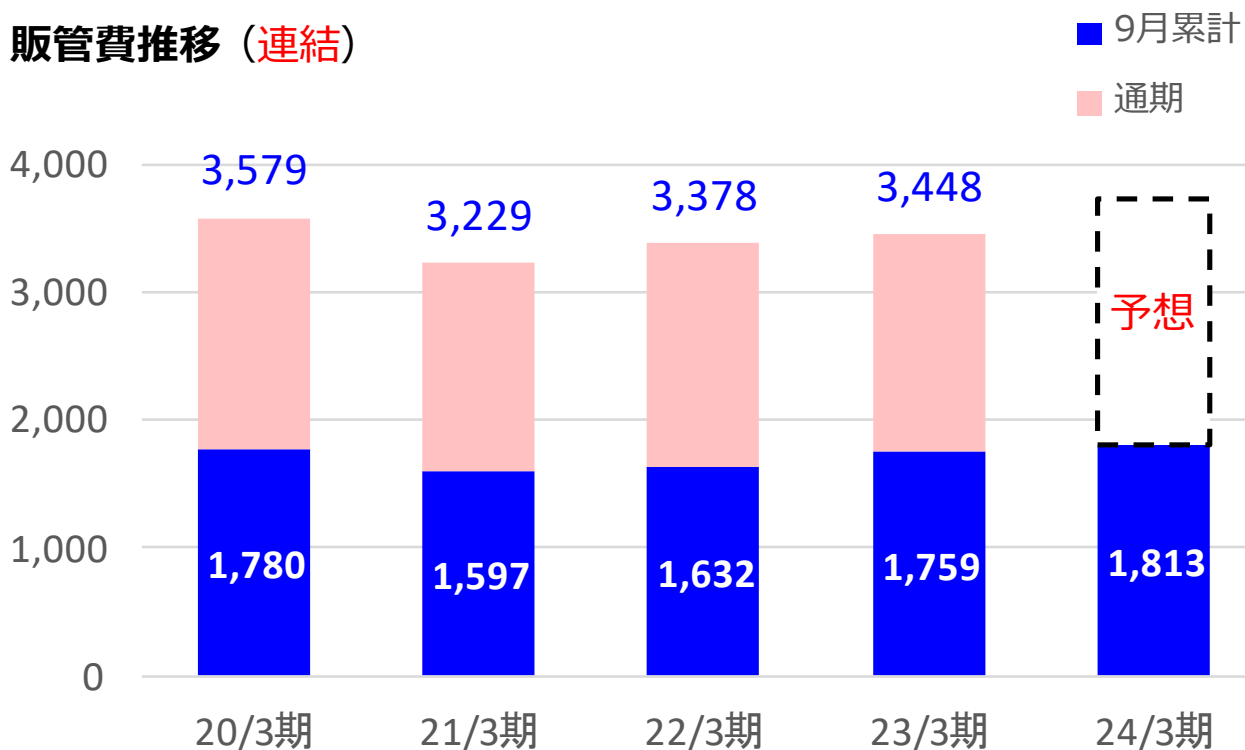
当初想定よりも販売費及び一般管理費が増加し、コロナ前水準を超える見通し

営業経費・・・コロナ5類移行で営業活動強化

不適切な会計処理の再発防止策 推進費用等

- ・・・追加監査費用、不適切会計調査費用、  
海外子会社管理強化のための渡航費用等、外部専門家の契約費用、  
研修等実施費用（ほか）

### 販管費推移（連結）




## ■ 2023年11月14日、通期業績予想を下方修正

- ・ 鉄道事業者の設備投資や修繕意欲は下半期も好調を維持するが、半導体不足の影響等により受注済一部案件の後倒し要請を受け、当初予想の売上高を達成することが困難に
- ・ 当初想定より、経費支出が増大
- ・ 中国子会社の石油関連取引を再構築するため、貸倒引当金に計上済みの未収金について、その回収額を戻し入れるのではなく、取引先の資金繰り支援のための信用供与に回すこととしたため、第2四半期累計期間の特別損失146百万円が通期でも確定

金額単位 (百万円)	23/3期 実績	24/3期 予想 (修正前)	24/3期 予想 (修正後)	修正 増減率	前期比
売上高	25,523	36,649	<b>28,658</b>	▲21.8%	+12.3%
営業利益	65	586	<b>171</b>	▲70.7%	+163.1%
経常利益	234	705	<b>289</b>	▲59.0%	+23.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益	▲259	462	<b>112</b>	—	—

記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。  
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

A blue-tinted photograph of a high-speed train on tracks. The train is white and aerodynamic, moving from left to right. Overhead power lines and support structures are visible above the tracks. The background shows a residential area with houses and trees.

## 5. 配当・株主還元



当社は、株主に対する利益還元と内部留保の充実や、収益性、成長性、企業体質の強化等を総合的に勘案して、安定的な配当の継続維持を基本方針としております

	21/3期 実績	22/3期 実績	23/3期 実績	24/3期 (予想)
1株当たり年間配当額	25.00円	25.00円	25.00円	<b>25.00円</b>
1株当たり当期純利益	98.49円	105.97円	▲90.78円	<b>39.17円</b>
配当金総額（合計）	70百万円	71百万円	71百万円	—
配当性向（連結）	25.4%	23.6%	—	<b>63.8%</b>

24/3期は安定継続配当の面から**1株当たり年間配当額は25.00円とする方針です**。  
現時点での配当性向は63.8%となる予想です。

**9月末に100株以上**を保有する株主様を対象に、株主優待を行っています。

株主様の日頃のご支援への感謝と、当社株式への魅力をより一層高め、中長期的に保有いただける株主様の増加を図ることを目的としています。

保有株式数及び保有期間に応じて優待ポイントが贈呈され、そのポイントの特設サイト「**ヤシマキザイ・プレミアム優待倶楽部**」にて、2000点以上の商品からお好みの商品をお選びいただけます。（社会貢献活動への寄付も可能です）

また、優待ポイントは次年度に繰り越すことができます。（最大3年間有効です）

**YASHIMA**  
株式会社ヤシマキザイ



*Premium*  
プレミアム優待倶楽部



2022年度は、小湊鐵道 様のご協力の下、オリジナル企画セットを提供



## 6. トピックス



## 1. 出品型鉄道専門フリーマーケットサイト「鉄道ひろば」1周年

当社は、創業以来、広く鉄道業界に携わる中で、鉄道のすばらしさとその価値を目の当たりにしてきました。

その価値を広く発信・共有したいという思いから、鉄道事業者や鉄道関連企業が鉄道古物や鉄道グッズ等を出品できる「鉄道ひろば」を2022年12月1日にオープンし、1周年を迎え、出品や商品ラインナップも拡大しました。

この取り組みが出品企業のマーケット拡大や収益向上と、鉄道沿線地域活性化の一助となることを願っております。

なお、**株主優待制度でお渡しするポイントを「鉄道ひろば」のクーポン券と交換することが可能です。**（交換時期は11月中旬～2月末の予定）



鉄道ひろば

鉄道ひろば



<https://www.tetuhiro.com/>

WEBサイト



Instagram



## 2. 第8回鉄道技術展に出展

「**鉄道技術展**」は2年に1度、鉄道・交通システムやインフラ技術、施設、電力、輸送、運行管理、車両、インテリア、旅客サービス関連他あらゆる鉄道分野の技術が横断的に会する総合見本市です。

2023年は 幕張メッセ にて11月8日～10日の3日間開催され、約35,000人が来場しました。

当社は既存仕入先との関係強化の他、展示会での情報収集を通じて新規仕入先や新規商材の開拓を目指して参加しました。



### 【出展内容（共催企業品含む）】

- ・高所作業車
- ・電気式鉄道車両用ワイパー
- ・平面パネルスピーカー
- ・踏切内AI滞留検知システム

など

### 【今後の開催予定】

2025年 幕張メッセ

2026年 インテックス大阪



### 3. システム開発による提案営業の推進

2023年11月、株式会社みんなシステムズ（東京都墨田区）と鉄道関連のデジタルトランスフォーメーション（DX）における取組みを強化するために業務提携契約を締結しました。

⇒鉄道各社やそのサプライヤーとの関係性を活かし、**部材の管理や販売管理ソフトウェア**を提案し顧客のニーズに応えた新たなビジネスを構築していきます。

既に関西の民間鉄道事業者への提案を行っているほか、複数のプロジェクトを共同で推進しており、より多くの鉄道関連の顧客に対してサービスを提供していく予定です。

鉄道は現代社会において重要な役割を果たし、安全で持続可能な経営が求められている一方、働き方の変化や人口減少に伴う労働力不足、技術継承など様々な課題に向き合っています。

ヤシマキザイとみんなシステムズは、鉄道業界が抱える課題に寄り添い、積極的にデジタル技術を提案、導入支援することでその解決に努め、持続可能な社会の実現に貢献します。

ヤシマキザイ

市場調査  
サービス化  
製品販売  
コンサルティング

みんなシステムズ

ソフトウェア開発  
サービス化  
法令対応  
保守業務

## 4. 踏切事故の未然防止をめざす実証検証に参加

2023年9月1日より、線路内に滞留する物体を大小問わず高精度かつリアルタイムに検知する「踏切内AI滞留検知システム」を活用した踏切事故の未然防止に向けた実証検証を開始し、その取り組みについて10月には新聞でも取り上げられました。

当社は、これまでに築いた関係性を活かし、鉄道事業者に実験フィールドの提供を提案し、システムを開発・運営する企業様との間を取り持っています。

### 【参加企業】

**関東鉄道株式会社**（本実験のフィールド提供）

**株式会社コシダテック**（本システムの開発・提供、本システムを構成するAIの提供）

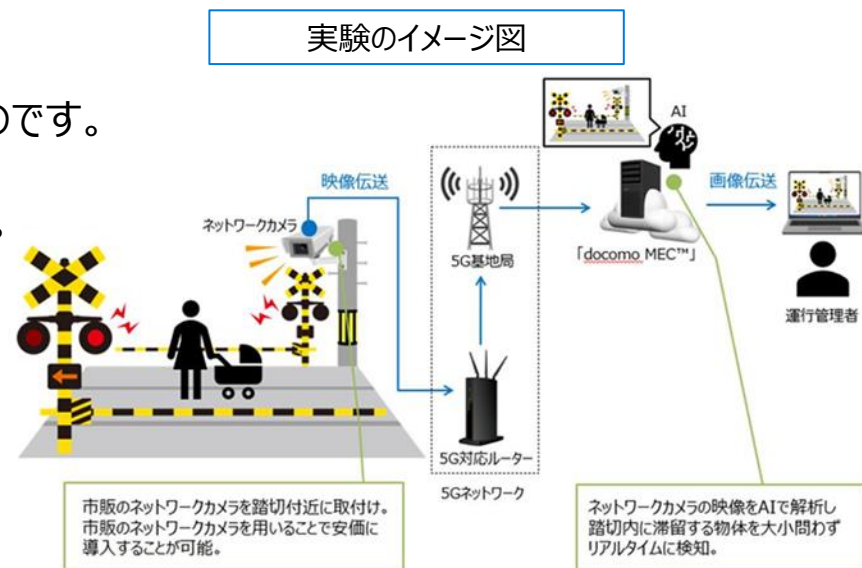
**NTTコミュニケーションズ株式会社**（本システムを構成するネットワークおよび「docomo MEC<sup>®</sup>」の提供）

**当社**（本システムの関東鉄道株式会社への提案）

### 【背景】

踏切事故の多くは、歩行者の渡り遅れに起因するものです。踏切事故を防ぐためには、線路内の滞留を検知する踏切支障検知装置が設置されることが一般的です。しかし自動車など大きな物体は高精度に検知できる一方で、自転車・ベビーカー・車いす・手押し車や、それらの帯同者など小さな物体の検知精度向上が課題とされてきました。

本実験では、5GネットワークやAIを活用した本システムを導入し、小さな物体の検知精度を向上させることで、踏切事故の未然防止をめざします。



## 5. ハイウェイテクノフェア2023への出展

道路インフラ業界への拡販活動の一環として、2023年11月9日～10日に開催された『ハイウェイテクノフェア2023』に出展しました。

ハイウェイテクノフェアは、公益財団法人 高速道路調査会が主催し、高速道路の建設・管理技術の普及や活用を促進するとともに、高速道路事業について広くお客様や社会の理解を得ることを目的に、「高速道路の建設・管理技術」に焦点をあてて開催される展示会です。



### 【出展内容（共催企業品含む）】

- ・落雷抑制型避雷針（PDCE）
- ・電気赤外線融雪装置
- ・ガラス割れ・飛散防止シート
- ・マジックテープ 虫除けタイプ
- ・ポータブルE V用急速充電器
- ・緩み止めワッシャー
- など



## 6. 新交通システム開発のスポンサー活動

当社は、**Zip Infrastructure**（ジップ・インフラストラクチャー）**株式会社**  
（本社：神奈川県秦野市、代表取締役：須知高匡、以下 Zip Infrastructure 社）  
が取り組む**自走式ロープウェイ「Zippar**（ジッパー）」の**開発を支援**し、次世代公共交通の実現に  
向けて取り組んでいます。

Zip Infrastructure 社は、神奈川県秦野市で開発を進めておりますが、当社も実験線用の  
機材等を提供しております。（右下写真は実験線で使用するロープウェイのキャビン）

「Zippar」はこれまでデッドスペースとなっていた道路上の空間を生かし、従来モノレールの半分の輸送量を、5分の1のコストと期間で建設可能な新しい交通システムです。これにより既存の交通インフラの隙間を埋め、渋滞緩和や街づくりに貢献していきます。

### <「Zippar」の主な特徴>

- ・低コスト：既存のモノレールに比べ、約1/5のコスト・期間で建設が可能
- ・自動運転：時間帯や路線など、旅客需要に応じて車両数の増減が可能
- ・自由設計：ロープとゴンドラが独立しているため、カーブや分岐に対応可能
- ・安全対策：ロープを2本とし、通常ロープウェイの1.5倍の風速まで運行可能

Zip Infrastructure社 ウェブサイト：

<https://zip-infra.co.jp/index.html>





## 7. サステナビリティ

ヤシマキザイグループは、SDGs（持続可能な開発目標）の趣旨に賛同しています。私たちが今できることを、具体的行動に移し、SDGsが掲げるゴールを目指します。

### 地球温暖化や大気・水質汚染の防止

ペーパーレス化を通じた森林破壊の抑制・地球温暖化や水質汚染の防止

タブレット導入によるペーパーベースの会議資料の削減・精算システムや電子印の導入による書類削減等に取り組んでいます。



### 社会貢献活動

医療・環境・教育団体へ寄付を通じ、社会貢献活動に従事

当社および株主優待経由で、日本赤十字社・WWF ジャパン・日本学生支援機構への寄付を行っています。



### 社員が働きやすい環境作り

働き方改革や健康経営の推進により、ダイバーシティとワークライフバランスの実現を目指す

ダイバーシティやLGBTへの理解向上への研修や、健康診断受診率向上への取組みを実施しています。

テレワークや時差勤務、ノー残業デー等の取組みを進めています。





**コロナウイルス感染症の影響が緩和される中、  
鉄道事業者等はコロナ以前の水準への回復途上であり、  
当社を取り巻く環境には未だ厳しい部分もありますが、  
当社はその活動を通じてステークホルダーの皆様、そして社会  
に役立てるように努めてまいります。**

**本日はご多忙中にも関わらず、I Rセミナーにご参加を  
頂きまして、ありがとうございました。**

**これからもヤシマキザイをよろしくお願い致します。**

**ご清聴、ありがとうございました。**

(7677) 株式会社ヤシマキザイ

2023年12月11日 個人投資家向け I Rセミナー

(主催：公益社団法人日本証券アナリスト協会 会場：北浜フォーラム)

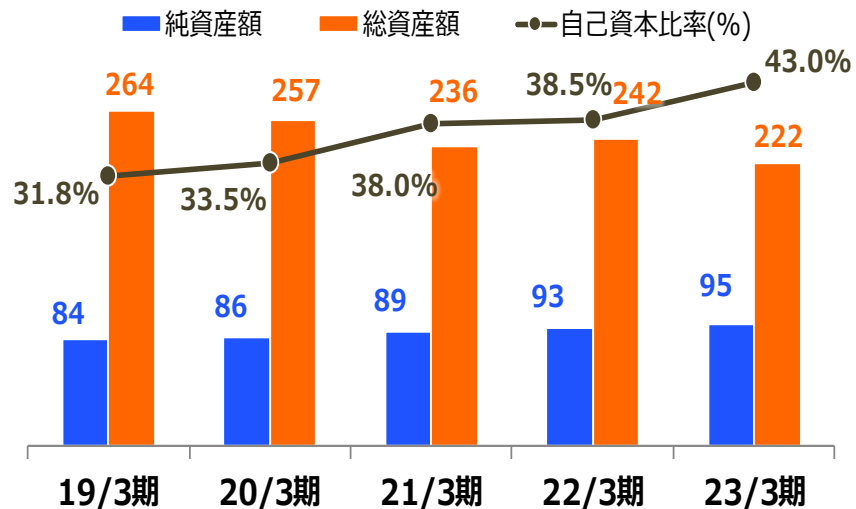
A blue-tinted photograph of a high-speed train (Shinkansen) on tracks. The train is white with a blue stripe and is moving towards the right. Overhead power lines and support structures are visible above the tracks. The background shows a residential area with houses and trees.

## 6. ご参考資料

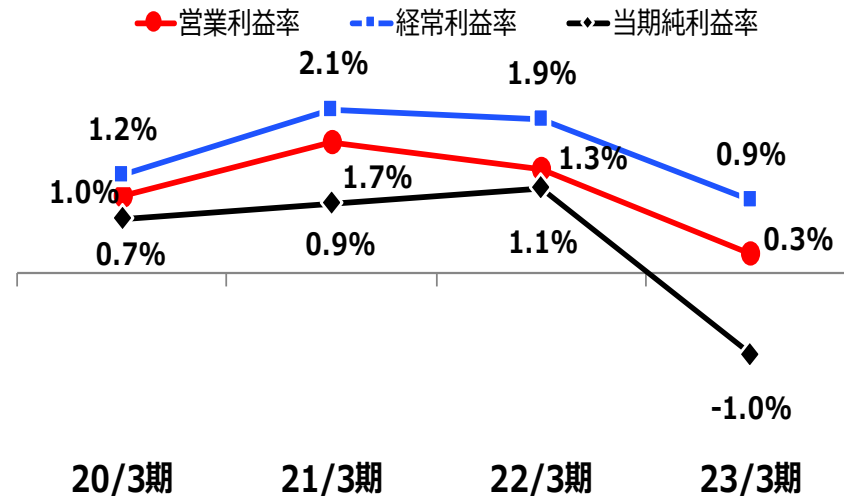
年月	概要
1948年10月	香西角三郎他6名を發起人とし、資本金25万円で東京都中央区に 八洲器材株式会社 として設立
1951年8月	振興造機株式会社（現 神鋼造機株式会社）と代理店契約 を締結
1962年4月	株式会社日本エアーブレーキ（現 ナブテスコ株式会社）の 販売代理店 となる
1965年10月	株式会社日立製作所「鉄道車両用品」の旧国鉄向け 販売代理店 となる
1971年8月	神鋼電機株式会社（現 シンフォニアテクノロジー株式会社）の 販売代理店 となる
1977年10月	日本航空電子工業株式会社「コネクター及び同関連製品」の 特約店 となる
1990年4月	小糸工業株式会社（現 コイト電工株式会社）「鉄道車両部品」の 特定地区向け代理店 となる
1995年4月	東京都中央区に子会社 ヤシマ物流株式会社 設立（100%出資）
2004年4月	中国現地法人 亜西瑪（上海）貿易有限公司 を設立（100%出資）
2008年1月	三友物産株式会社 を子会社化（100%出資）
2011年10月	日立三菱水力株式会社「水力発電システム」の 販売代理店 となる
2013年11月	本社を現所在地に移転（東京都中央区日本橋兜町6番5号）
2013年12月	当社の商号を 株式会社ヤシマキザイ に変更
2017年4月	三友物産株式会社 を吸収合併
2019年6月	東京証券取引所 市場第二部 に上場
2022年4月	東京証券取引所 市場区分の見直しにより 市場第二部から スタンダード市場 に移行

社名	株式会社ヤシマキザイ 【英文名】Yashima & Co.,Ltd.					
本社	東京都中央区日本橋兜町6番5号					
代表者	代表取締役社長執行役員 高田 一昭					
設立	1948年10月28日					
資本金	9,990万円					
従業員数	257名 (2023年3月末現在 連結)					
事業内容	鉄道関連製品と産業用電子部品の販売、メンテナンスサービスおよび輸出入					
連結子会社	名称	住所	資本金	事業内容	議決権の所有 (又は被所有)割合	関係内容
	ヤシマ物流 株式会社	東京都 中央区	40,000 千円	鉄道事業、 一般事業	100.0%	物流業務等の委託
	亜西瑪(上海) 貿易有限公司	中国 上海市	1,000 千US\$	鉄道事業、 一般事業	100.0%	商材の仕入・販売 借入債務の保証 役員の兼務3名
※両社とも特定子会社 ※有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。						
海外拠点	デリー支店、ミャンマー支店、ハノイ駐在員事務所、ジャカルタ駐在員事務所、 マニラ駐在員事務所、ロンドン事務所、ムンバイ事務所 ■上海会社(現地法人)：上海・青島・深圳					

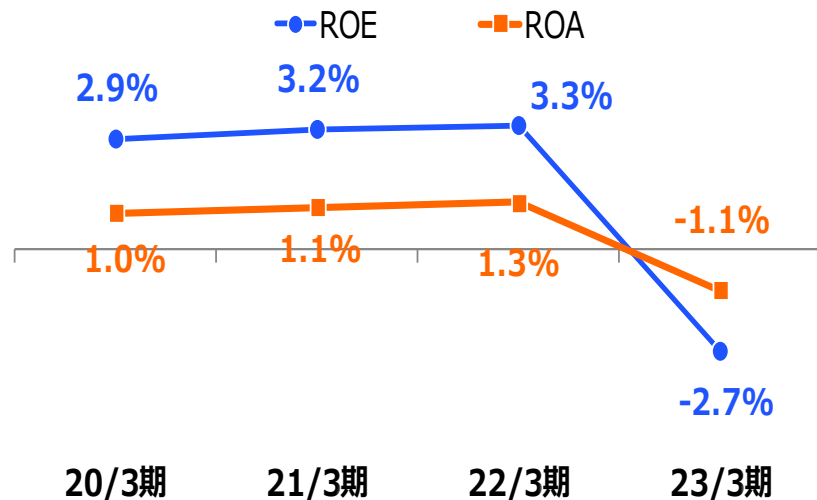
## 総資産・純資産の推移 (億円)



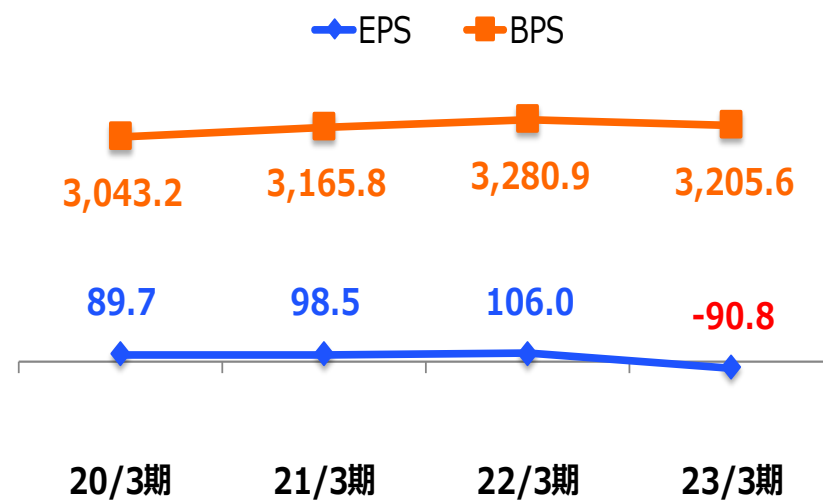
## 利益率の推移



## ROE・ROAの推移



## EPS・BPSの推移





## 【経営理念】

- 一. ヤシマキザイは、鉄道・交通ビジネスに強い専門商社として、限りの無い成長を目指します
- 二. ヤシマキザイは、人材育成を通して、会社の成長を社員と分かち合います
- 三. ヤシマキザイは、法令を遵守し、良き企業市民として社会に貢献します

## 【行動準則】

- 一. 3現主義（「現場」「現物」「現実」）を基本にして行動する
- 二. コンプライアンス行動原則に基づき行動する



東証スタンダード市場 証券コード：7677

株式会社ヤシマキザイ <https://www.yashima-co.co.jp/>

【お問い合わせ先】 経営企画室

TEL：03-4218-0096

E-mail：contact-ir@yashima-co.co.jp